教皇のことば
～アシジの聖フランシスコ④～

11月である。教皇フランシスコが、今月23日に来日される。

超過密スケジュールで、広島平和公園では24日「平和のための集い」が行われる。

修学旅行生も参加し、希望者が多いため、私たち下松教会の信徒は改装された幟町にある平和記念聖堂で中継されるのを見ることになっている。教皇の言葉は色んな意味で影響があり「平和のための集い」での発言はどんなものか関心を集めている。

昭和49年にヨーロッパ各地を巡礼した時、バチカンでパウロ6世に謁見した。私は信徒代表で最前線で謁見したが、この時パウロ6世はわざわざ最前列の所まで来られ、握手をして下さった。

それを後方で見ていた婦人たちから「藤屋さん、教皇様と握手した手に触らせて」と、今度は私が握手ぜめにあった。

また、ヨハネ・パウロ2世が来日された時には、幸運にも東京で直接に謁見し、ロザリオをプレゼントされた。

しかし、これらの表面的出来事にとらわれず、教皇の回勅をはじめ、教皇が今の世の中に向かって行動されていることに対してもっと関心を持たなければいけないと思い始めた。

例えば、教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」、今までほとんど読んだことはなかった。今回、時間がかなりかかったが、今の地球が抱える環境問題に、信仰をこえて社会問題として極めて的確に分析し、人類が進むべき道を示している。

「ラウダート・シ」は古いイタリア語で、アシジの聖フランシスコの「太陽の賛歌」からとられたものだ。

教皇フランシスコは12世紀に活躍したアシジの聖フランシスコの生き方の中に、現代社会が抱える問題を見つけ、我々にどう今の社会の中で生きるべきかを示してくれている。これを唯信仰だけの問題にすべきではないと思う。

1981年に来日したヨハネ・パウロ2世の広島の原爆ドーム前での「平和アピール」は今も忘れることはない。

「戦争は人間のしわざです。

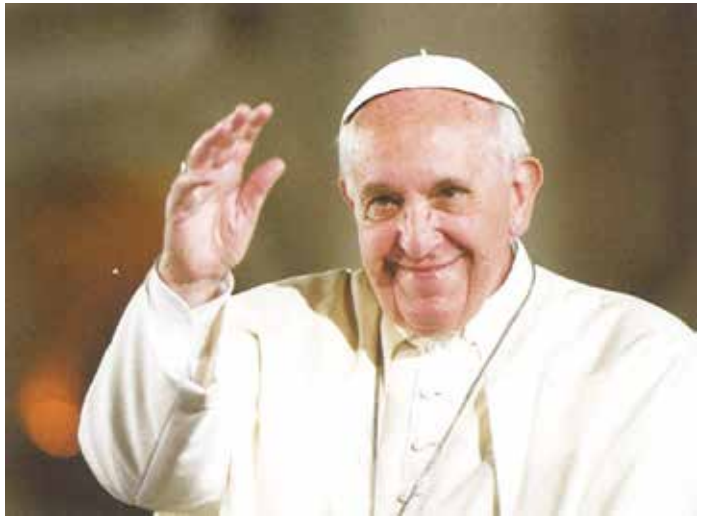
戦争は人間の生命の破壊です。

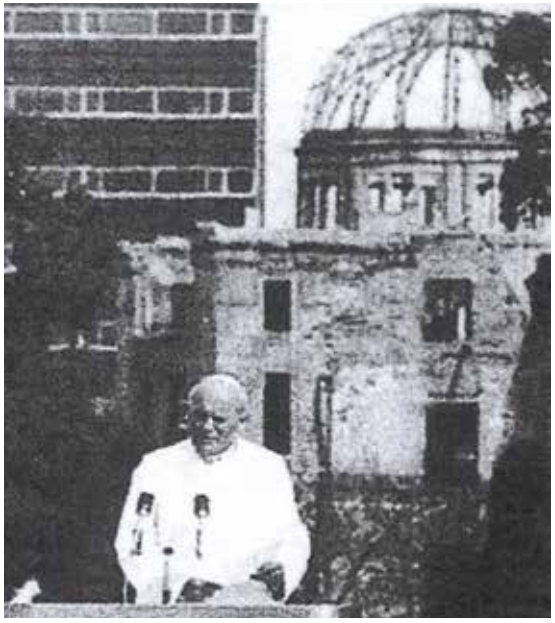
戦争は死です」と。

この平和アピールは広島から全世界に向かって流れ、大きな反響があった。

24日、広島での「平和のための集い」で、教皇フランシスコはどんな発言をされるだろうか。

フランシスコと名乗る程「アシジのフランシスコ」の生き方を「総合的エコロジーの最高の模範」と高く評価しているフランシスコ教皇。ヨハネ・パウロ2世の平和アピールとは違った発言をされるのではないかと色々想像しながら24日の「平和のための集い」の発言を楽しみに待っているのである。


来日されるフランシスコ教皇


原爆ドーム前でのヨハネ・パウロ2世

回勅「ラウダート・シ」の表紙から